

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 8月 1日

事業所名 放課後等デイサービス リンクエイトII

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	0	・適切な職員配置を心がけ活動室内でコーナー分けを行っている。	・個室にて個別対応が必要な場合は、安全面に考慮しながら職員の配置を行う。
	2 職員の配置数は適切である	5	0	0	・全員常勤の為、活動の準備を手厚く行える。	・学校お迎え時の職員配置について手薄になる時間帯がある。パート職員の配置を検討する。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	0	3	2	・現状では特に大きな問題はない。	・利用者に応じ、バリアフリー化等について検討する。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	2	0	・職員ミーティングを行い良かった点と改善点を話し合い次の活動に活かしている。	・今後も職員ミーティングを充実させ、職員の意見を反映していけるよう努めていく。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	2	0	・保護者から意見があれば全職員で共有し、改善点を話し合う。	・今回、初めてのアンケート実施になるが、今後も年1回アンケートを実施し業務改善に繋げる。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	1	1	・第1回目の自己評価のため、集計後に公表する。	・HPがないため、早急に作成する。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	1	0	・第三者委員を配置し相談等を行っている。	・現在利用者と社内評価のみとなっているため、今後必要に応じて実施を検討していく。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	2	3	0	・心理士によるケース検討会議を行っている。	・各職員に必要な研修は適宜参加を促しているが、全体に対する研修を今後増やしていく。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	0	・モニタリング前後に全職員で会議を行っている。	・計画の作成後、職員間で統一した支援が行えているか確認が必要。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1	0		・必要なアセスメントツールを適宜組み合わせで使用していく。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1	0	・日々の活動リーダーを配置し、固定化されないようにしている。	・活動後の評価を行う事で、次の活動に繋げていく。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	0	・子ども達の意見を聞き、取り入れている。	・日々の活動プログラムを設定し、見直しを持った活動参加ができるよう配慮していく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	0	0	・平日に体験できないような活動を企画している。	・今後も継続してニーズを確認する。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	0	・利用者が医療機関で行った検査結果を持参して頂き発達状況を把握している。	・個別が必要な場合は職員配置に配慮する。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	0	・朝礼時に1日の流れを話し合い、職員ラインで共有している。	・今後も継続していく。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	0	0	・翌日の朝礼時に話し合うが、必要な場合はその場で共有する。	・送迎後のミーティングは業務時間外になるため、職員間のSNSを活用する。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	0	・業務日誌は都度記入できるようにしている。	・記入者が固定されないようにする。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	0	0	・6か月に1度、支援計画の見直しを行っている。	・子どもの状態の変化や保護者のニーズを適宜取り入れられるように努める。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	3	2	0		・ガイドラインの読み合わせなど、全職員で共通理解が必要。	
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	0	・可能な限り児童発達支援管理責任者が出席している。	・調整が難しい場合は、事前会議を行い、担当の職員が参加するなどして対応する。
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	1	0	・保護者からの事前連絡、学校HPの確認を行い、全職員で共有している。	・連絡を受けても職員間の伝達ミスがあるため、漏れのないようその場で伝達対応していく。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	4	0	・該当者なし。	

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	3	0		・相談支援事業を介し、事前に情報共有してもらえるよう努める。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	2	0	・必要に応じて、移行先への情報提供等の支援を行っている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	2	0		・専門機関が主催する研修会等に参加できるよう努めていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	1	0		・デイ同士の交流は行っているが、必要に応じて地域で実施されるイベント等に参加交流できる活動を取り入れる。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	4	0		・要請があれば参加する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	1	0	・保護者連絡用公式ラインの活用。	・一方的な連絡になっていないか、都度見直しが必要。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	1	0	・心理士によるカウンセリングや勉強会の実施。	・保護者向けペアレントトレーニングのプログラムは行っていないが、フィードバック時に対応方法などアドバイスの機会を設けていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	0	・契約時に説明を行っている。	・不明点などがあれば都度相談を受ける体制を整え、周知していく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	0	・心理士による相談日を設置している。	・送迎時の面談、電話、公式ライン等で対応しているが、必要に応じて別日で相談日を設ける。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	0	0	・保護者ゆんたく会の開催。	・参加者が少ないため、仕事をしている保護者が参加しやすい日程の調整を行う。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	0	・公式ラインにて気軽に相談できる体制を整えている。	・現在まで苦情はないが、苦情の有無に関しても周知する。苦情があった場合は、管理者を中心に迅速かつ丁寧に対応していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	2	0	・毎月の活動予定をお便りで配布している。	・継続して行う。
	35	個人情報に十分注意している	5	0	0	・職員、保護者に守秘義務の同意を得ている。	・SNS等で個人が特定できる写真は使用しないよう確認を行う。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	0	・子どもや保護者の特性について職員間で共有している。	・わかりやすい伝達方法を工夫したり、伝わる方法を利用者や保護者に合わせるようにしていく。
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	2	1	・実施していない。	・地域の中の事業所として可能な形で開かれた事業運営に努める。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	3	0		・全ての保護者に周知する事ができていないため、今後周知の仕方について検討する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	1	0	・年2回避難訓練の実施。報告書の作成。	・全利用者に訓練の実施が行えるよう日々の活動にも取り入れていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	2	0		・外部の研修に参加したり、内部でも定期的な勉強会の開催を行う。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	0	0	・放課後等デイサービス計画書に記載している。	・現在、対象児童はおりませんが、必要に応じ対応できるよう職員間で共有していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2	0	・保護者に事前に確認している。	・エビペン保持者がいるため、定期的に研修会を行う。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	0	・危険な事例があった場合、報告書に記載し職員で共有している。	・ヒヤリハット事例集の定期的な見直しを行う。